

■PRパンフ作製、「サポーター」募集も

リニア中央新幹線の中間駅誘致を目指す生駒市の山下真市長は6日、会見し、具体的な誘致構想を発表した。企業が集積し交通アクセスに優れた東海道新幹線の品川駅をモデルに誘致を進める方針。構想を紹介するPRパンフレットを作製したほか、市民などを対象に「誘致サポーター」の募集も始めた。

会見で山下市長は、誘致先とする「高山第2工区」について、工区を含む関西文化学術研究都市に大学や企業の研究施設などが集積している優位性を強調し、「車両基地を含め、開発可能な土地も広大で、西の品川駅になりうる」と指摘。

現状では不便な既存の鉄道網との連絡についても、「近鉄けいはんな線などの鉄道延伸の可能性はある」とした。

PRパンフレットは、誘致構想などを分かりやすく紹介する内容で、3千部を作製した。

誘致サポーターは、市の誘致構想に賛同する会員として市に登録。誘致イベントなどに参加していく。サポーターには市外からも登録できる。

市は中間駅誘致に向け、9月29日、市内の北コミュニティセンターI STAはばたきで「リニア新駅を生駒へ！シンポジウム」を開催する。

国土交通省の近畿地方交通審議会委員などを務める斉藤峻彦・近畿大名誉教授の講演や、山下市長も参加するパネルディスカッションを予定している。

シンポジウムの終了後、市議会や生駒商工会議所などが一致して誘致活動を進める「市リニア中央新幹線中間駅誘致推進協議会」の発足会も開く。

山下市長は「誘致機運を盛り上げていきたい」と話している。

リニア中央新幹線は平成39（2027）年に東京－名古屋間で、57（2045）年に名古屋－大阪間で開通する予定。